

INTERCOLOR in JAPAN 2009 2011年秋冬インターカラー日本会議始末記

この度、2009年11月30日～12月1日にかけて、初めて日本でインターカラー会議が行われ、同時にインターカラーメンバー（12カ国）による記念イベントが開催されましたので、その内容をご紹介します。主催は財団法人日本ファッション協会流行色情報センター（JAFCA）。

インターカラー（INTERCOLOR=国際流行色委員会）とは、世界14カ国の代表が集まって、2年先という最も早い次期トレンドカラーの方向性を検討する会議であり、1963年に設立され、日本は設立当時からJAFCA（当時は日本流行色協会）が会議に参加しています。このインターカラーでの選定色は国内向けに発行するJAFCAカラーのよりどころであるだけでなく、世界的な素材展示会での動向を左右し、その後のカラーの流れに大きな影響を与えるため、ファッション、テキスタイル業界でも注目されるトレンドカラーです。その影響範囲は、衣服はもちろん雑貨やインテリア、デジカメや携帯電話などの工業製品に至るまで大きく拡大しています。

● 記念シンポジウム／2009年11月30日 東京・六本木 国立新美術館

通常は完全クローズのインターカラーのワークショップですが、今回は特別に公開されるということから200人も参加者が集まって大盛況。会場も魅力の一つだったようです。シンポジウムのテーマは、まだボリュームになっていない「マイクロトレンド」で、さまざまな視点からのプレゼンテーションが行われました。それでも、「個人」や「エコ」「DIY」などの共通する視点も見られました。



会場の国立新美術館



メンバーのプレゼンテーション



会場風景



インターカラーのオルネラ議長

インターカラー
各国代表

● プレスインタビュー／2009年12月1日 東京・日本橋 ワイアードカフェ

2011AWカラーの選定が終わった後で、各国メンバーとマスコミとのプレスインタビューも行われました。始めに現議長のオルネラ・ピニャーミ女史（イタリア代表）から「インターカラー発起国の一つである日本で素晴らしい経験をさせていただいた」とのコメントがありました。